社說

政界の風儀

維新政府は少壯の書生輩が組織したるものなれば其氣風自から活潑にして事を處するに簡易を貴び人に接するに誠實を旨として空威張りもなければ情實も少なく一意專心たゞ國の進歩を計るのみなりしが故に人民の間に不平もなかりしなれども凡そ物、久しければ腐敗するの習にて少壯活潑の政府も何時しか老大と爲り曾て薩川の陋藪政治を憤りしものが今は自から爵位の制を設けて自から藩閥と爲り殿樣流に生活して自から人民を壓蹂するの狀を示せしのみならず一面に於ては情實の弊を奏ひ頻りに鄉黨を用ひて上は大官より下は巡査の末に至るまで悉く同類を以て充すと共に官邊の威光を利用して利す可らざるの利を利するの形跡さへ之なきに非ず人民に於て不平なからんと欲するも得べからず而して其不平は則ち國會開設論の形を以て破裂し人心一時に沸騰して物論囂々たる嘘しかりしかば政府も其始末に困却して有志者の舌を束縛し出版運動を妨げんとしたれども大勢の趨く所如何ともす可らず遂に帝國議會を開設したるは恰も明治政府第二の維新にして實に新面目を改め舊弊情實の弊も次第に衰へたり

試に今日の政府を以て明治十四年前の政府に比すれば著しき相違なれども猶れども今の政治界の空氣を以て未だ情實なりとは云ふ可らず近來議員買收と云へる奇怪なる言葉の流行すると共に議員輩の擧動を見れば方向定まらず今日は西に向ひ明日は又東に轉ずるもの少なからず或は論爭するものあり或は分離するものあり政黨界の紛擾今日の如き甚だしきは未だ嘗て見ざる所なり其當人に就て一々詳明を求むれば夫れ〳〵多少の理由あるみとなるなれども局外者より見れば其理由甚だ微弱にして感服するに足らず或は之を評して政界の風紀亂れたるの兆候と云ふも不可なきが如し政治は國民より信なるものにして政客に望むに道德家の品行を以てす可らざるは論を待たず又論も試に議會開設當時の氣風を顧みれば今日と大に趣を異にするものあり各議員が自から任ずる所輕からずして只管政事の革新を促がし熱心に論爭したる其議論の中には固より過激粗暴取るに足らざるものも少なからざりしかども進退去就は甚だ明白にして苟めにも曖昧の擧動するもののれば四方人面より非難して殆んど身を置くに所なからしめたるはさなきに今や見て以て常となし敢て怪むものなきは寒心すべき變化と云ふ可し又選擧競爭の結果を見るに初めは議會議員の選擧にても國會議員の選擧にても運動の力強き者勝にして或は新聞紙に訴へて輿論の是非を爭ひ或は演說して選擧人の賛成を求め或は意見書を配布して其同意を乞ふなど只管公明盛大に運動したるが故に若干運動費をなるものは眞眞の運動費にして人に向ても支出の途を說明するみと雖からざりしに今や斯の如き方法は迂遠として取るものなく寧ろ內密に運動して少なからぬ費を費やす其費の支拂は人に向て語るを憚り秘密にして言ては虛として散財の多少に依り人物の品評を爲すると雖せざるものゝ如し亦著しき變化と云ふべし

斯の如きは立憲政治の通弊にして獨り我國に限らず歐米に於ても見れざる所なれども專制政府の惡弊を矯めんが爲めに近頃漸く生れ出でたる新立憲政治の中に早く既に惡弊を生じて政府と共に相待て政界の風紀を亂すが如きは我輩の遺憾とする所にして若し此〳〵に放任すれば或は醜態百出するみとなしと云ふ可らず政府は宜しく維新當時の氣風を回想し議員は議會開設前後の精神を顧みて相共に自から戒め腐敗の濁に沈まざる樣注意せんみと我輩の希望する所なり

電報

○八嶋艦入港

横須賀十一月三十日午前特發

八嶋艦唯今(午前八時十分)入港す

○綿絲の手合

大阪十一月二十九日午後特發

本日綿絲干俵の手合あり天滿、大阪、尼ケ崎、岸和田等の製品にて來月渡の約束なり直段は十六手上物八十六圓五十錢、下八十四圓五十錢にて十六手十手等の手合なりき又た一昨日三井物產會社にても二百俵を買入れ製品は岡山、大阪等にて二十手八十九圓五十錢の相場なり最初より支那向凡そ九千俵の手合ありたれども多くは先物なり

○農工銀行重役選擧

鳥取十一月三十日午前特發

本縣農工銀行の重役は本日選擧を了り頭取以下確定せり

○貨幣の欠乏

前橋十一月三十日午前特發

當地方は目下時貨幣の欠乏せし爲め取引困難なり

○勸業銀行員の取調

和歌山十一月三十日午前特發

和歌山紡織會社より勸業銀行へ借入の申込を爲したる爲め擔保物取調として同行員當地に來る

○知事巡廻

鳥取十一月三十日午前特發

荒川本縣知事は本日より管內巡視を爲す

○新知事歡迎會

鳥取一月三十日午前特發

昨日縣會議事堂に於て荒川知事の歡迎會を開く

○知事上京

富山十一月三十日午前特發

石田知事本日上京す

○新兵の見送

四日市十一月二十九日午後特發

本年徵集の新兵本日出發名古屋師團へ入營するに付き市中は每戶國旗を揭げ見送人頗る多し

○塚本十一旅團長

山口十一月二十九日午後特發

塚本十一旅團長本日當地へ着せり

○新兵入營

鳥取十一月三十日午前特發

新兵六百四十二名明日入營す

○新兵送別會

宇都宮十一月三十日午前特發

本日市民は新兵の入營を送らんが爲に盛なる宴會を開きたり

○弘前の降雪

弘前十一月三十日午後特發

昨夜よりの降雪未だ歇まず

○富山の初雪

富山十一月三十日午前特發

昨日初めて降雪あり

○長野の初雪

長野十一月三十日午前特發

今朝初めて雪降る

○大和艦拔錨

神戸十一月三十日午後特發

當港に碇泊中なりし大和艦は今朝吳港へ向け拔錨せり

○北越近事 (三)

神奈川縣下　對馬德之助

運輸交通の現況及び將來

越後は西に妙高山東に飯豐山南に八海山ありて何れも高峻を極め西北の一帶海に面するも港灣の見る可きものなし往昔上杉謙信の北越に威力を恣にしたるも四圍の險容易に敵兵の侵入を許さゞるも與かりて力ありしが如し謙信が曾て清水越(前橋(の通路)八十里越(會津地方に出づる道)及び大坪切越(信州川中嶋(の道)の險を扼守せば枕を高うして眠り得べしと云ひたるも謂れなきにあらず降りて德川時代となるや幕府は新發田に溝口氏、黑川に柳澤氏、村上に內藤氏、三根山に牧野氏、長岡に牧野氏、村松に奧田氏、三池に立花氏、椎谷に奧山氏、三日市に柳澤氏、與板に井伊氏糸魚川に松平氏を封じ諸侯には多きも七萬四千石少なきは一萬石を領せしめ此等の諸侯を控制する爲め近臣柳原氏に十五萬石を與へて高田の藩主とせり諸藩主は封建時代の習として相互に守るに優なる爲め各地への交通路に意を用ひざるのみならず力めて通路を險惡にし我には何々の險あり抔と誇りたる樣なれば維新以後數年の間は殆ど道路なかりしなり唯信濃より來り中魚沼郡の中央を貫き三嶋古志の郡界及び西南瀧原郡を經て海に注ぐの信濃川と岩代より來り西流して海に入る阿賀野川及び國內に縱橫する數多の小河流を利して運輸を謀りたるに過ぎず明治十二年府縣會起るや各地方とも爭ふて道路の開鑿に意を注ぎたりしが新潟縣會には十四年始めて道路修築論起り翌來殷意みの事に從事したるも治水工事に莫大の費を投じたる爲め山形、福島の兩縣一は縣道一等線あるも未だ國道を見るに至らず海路は例年十月中旬より翌年四月中旬に至る間波高くして定期航海するものなく季間船舶の出入絕無なるにあらざるも僅々二百噸の汽船に一運賃を費やしたる例なかりすといふ(新潟にて)十二年以前より信越鐵道ありるも直江津より新潟への海路は右に述べたる如く甚だ不便なる故以て縣下百八十萬の人民は每年十月中旬以後殆んど半箇年間は蟄居孤立の境遇に甘ぜざる可からず然れども文明は永く越後の孤獨を容さず鐵道の敷設を企畫するもの續々起り北越鐵道の如きは既に五十二哩餘の工事を開始せり右に既成、工事中、本免假免狀を下付されたるものを掲ぐれば左の如し。

官設鐵道(縣費)	碓氷線、高崎間	百十七哩
北越鐵道(會社)	碓氷、三條、北條、柏崎間	五十二哩
北越鐵道(工事中)	三條、長岡、北條間	三十一哩
北越鐵道(本免狀)		
北越鐵道(假免狀)		
岩越鐵道(本免狀)		
上越鐵道(假免狀)		
羽越鐵道(假免狀)		

信越鐵道は世人の最も北海鐵道に比するものなれども北海鐵道は將來縣下の運輸聊か關知せざるに反し信越鐵道は二月十二日本免狀を下付されたる直江津より新潟に至る二十二哩の間は既に用地に抗料蒐集に取掛り一部は既に工事中なる田新山(直江津)乾立する山)の間(六百十九尺)十八尺二號四號(六百十九尺)六號(六百四十尺)(千三百九十七尺)三尺七分に亘り西に駢列せり來て本年二三月頃に於て四線の鐵業を開始せんとするも其著しき實例を得るにそれり(此限にあらず)物は必ず三日を期して民は今日東京發程の開通を見るなるに至る二十二哩は北端に餅する日下工事中なる二哩は今賞を懸けて轉業せしむる豫定なり年中に開通式を開きの間に信濃川に橋を架設する爲め工事略ぼ八分を進めれども明年七月後六哩に延長四千一百九十村多し要するを以て全線開通を與へ新潟、新發田間迄の石油の運輸は例年の中部を北南北に貫く鉄道は四通八達の便あれば及ぼす影響

○鐵道公債

大蔵省告示第七十八號

本年二月大蔵省令フ…キニ付無記名…ヘ代理…店ヲ指定…新聞紙ニ…記載シ…